

平成30年度 道川分教室研究計画

- 1 研究主題 一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり
～自立活動における個別学習の指導を通して～

2 主題設定の理由

道川分教室では昨年度までの2年間、朝の活動・朝の会を通して「人との関わりを広げる授業づくり」に取り組んできた。自分の気持ちを表し、伝える姿を目指した児童生徒個々のねらいを設定し、指導内容・方法についての評価・改善を積み重ねることで、感情の表出や自発的な動きなど、児童生徒の変容に結び付いた。集団学習の意義や活動を継続することの重要性について確認することができたが、児童生徒個々の実態把握や目標設定等が担任や学習グループ担当者に任せられ、全職員で共有しきれず、朝の会以外での学習に生かすことができなかつたという課題が挙げられた。

本分教室では自立活動を中心とする教育課程を編成しており、個別指導の形態による個別学習の時間が多く行われ、全ての教育活動の基盤ともなっている。これまでは個別学習の指導に関する実態把握や目標、指導内容の設定、授業実践の過程を担当一人で担ってきた。昨年度の課題を踏まえ、さらに個別学習と他の学習との関連を深めていくためにも、チームや職員全員で協力・連携しながら個別学習の授業づくりを行う体制づくりが必要である。担任だけではなく複数の教師で連携し、意見交換しながら、的確な実態把握や卒業後の目指す姿、教育的ニーズの明確化をした上で目標設定を行い、自立活動の項目と関連付けた指導計画を作成していきたい。

さらに、児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである道川分教室における4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を意識した授業づくりに取り組む。

チームで個別学習を支える工夫を行い、教育的ニーズの明確化から指導計画立案・実践までの手続きを見直し、評価と授業改善を積み重ねることで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習の指導ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

複数の教師によるチームで個別学習を支える工夫を行い、教育的ニーズの明確化から指導計画立案・実践までの手続きを見直し、評価と授業改善を積み重ねることで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習の指導ができるのではないかと考え、本主題を設定した。

4 研究方法

(1) 授業づくりをチームで支えるための工夫

- ・道川分教室としての教育的ニーズの捉え方、自立活動の項目と関連付けた指導計画作成までの手続きの仕方について検討し、全職員の共通理解を図る。
- ・3つのチームを編成し、チームごとにケース検討会を実施して児童生徒の実態把握を行い、卒業に向けた目指す姿、個々の教育的ニーズを押さえ、自立活動の流れ図を活用しながらめあてや手立て、指導内容を考え、授業づくりを進める。また、全職員で情報を共有・検討する機会を設定する。
- ・チームごとに授業づくり検討会を実施し、各自の個別学習の授業を見合ったり意見交換したりしながら、授業改善を進める。
- ・発達アセスメントMEPAⅡを複数の職員により実施し、実態把握に役立てる。
- ・授業評価記録用紙について、個別学習の授業で活用し授業改善に生かすことができるよう、様式や活用方法を工夫する。

(2) ケース検討会(児童生徒一人につき年3回実施)

- ・チームで実態把握を行い、個々の卒業後の目指す姿、教育的ニーズを押さえ、自立活動の流れ図を活用しながらめあてや手立て、指導内容を考え、授業づくりに生かす。

- ① 5月～児童生徒一人一人の実態、卒業後の目指す姿、教育的ニーズ、目標等について話し合い、共通理解を図る。それを受けて自立活動の流れ図を作成し、個別の指導計画作成に反映させる。

② 8月～年度当初に共通理解した児童生徒一人一人の実態、卒業後の目指す姿、教育的ニーズ、目標等が適切であったかを見直すとともに、支援が適切であったかを評価し合い、2学期以降の指導に生かす。

③ 2月～児童生徒の様子や一年間の変容を基に評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討する。

(3) 授業づくり検討会（年4回、他にチームごとに随時実施）

- ・ ケース検討会で共通理解した、児童生徒一人一人の実態、卒業後の目指す姿、教育的ニーズ、目標を基に、個別学習の目標、指導内容等の検討を行い、チーム内で意見交換をしながら授業づくりを進める。
- ・ 個別学習の様子をビデオ撮影しグループ内で見合って意見交換を行う。

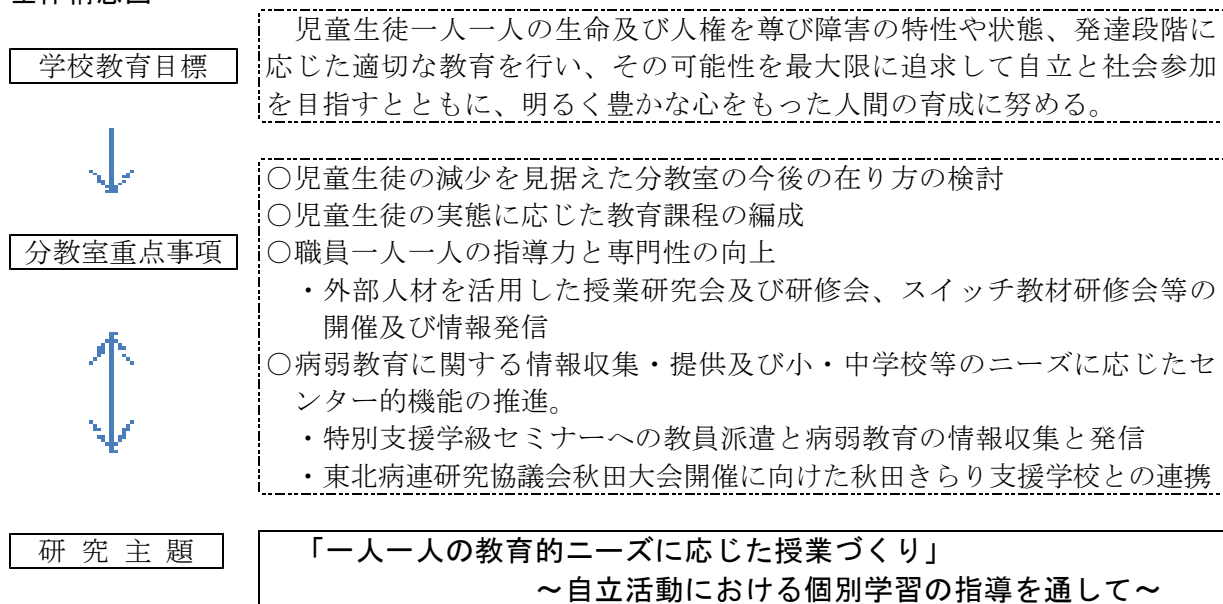
(4) 授業研究会

- ・ 個別学習の授業提示及び研究協議会を通して、教育的ニーズに応じた授業づくりができたか協議する。
- ・ 外部専門家や分教室以外の職員による助言や外部評価を得て、より専門的、多角的に指導内容・方法を検討する。

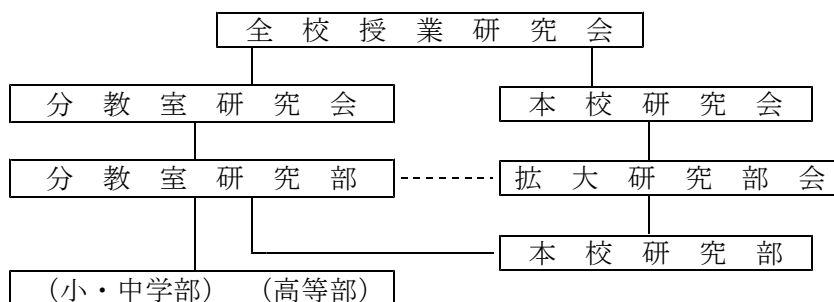
(5) 自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・ 校内外の人材を活用した自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に役立てる。

5 全体構想図



6 研究組織



研究年間計画

主 な 活 動 内 容				
月	研 究 会	ケース検討、授業づくり検討、授業研究会	学習会・研修会	その他
4	分教室研究会①(18) ・今年度の研究の進め方について		自立活動学習会①(23) 自立活動学習会②(23)	
5	分教室研究会②(9) ・研究概要の確認	ケース検討会Ⅰ(11~18) 授業づくり検討会Ⅰ(1)	自立活動学習会③(7) (兼保健研修)	県特研理事会①(11) 訪問担当教員研修会 (道川分教室会場23)
6		授業づくり検討会Ⅱ(8)	自立活動学習会④(18)	
7		授業づくり検討会Ⅲ(24)	教材・教具研修会①(23)	指導主事計画訪問(4)
8		ケース検討会Ⅱ(23~24)	全国病弱虚弱教育研究連 盟研究協議会茨城大会 (2~3)	病弱教育地区別研修会 中央地区(1) 県南地区(6) 県北地区(8)
9		授業研究会①(18) ・秋大指導助言要請	自立活動学習会⑤() ・秋田大会発表について	
10	分教室研究会③(11) ・前期の成果と課題の 共通理解、後期に向 けた授業改善	ミニ授業研究会	東北地区病弱虚弱教育研究 連盟研究協議会秋田大会 (4~5)	
11		授業研究会②(20) (指導主所要請訪問)		
12	分教室研究会④(17) ・研究の評価及び課題 の整理	授業づくり検討会Ⅳ()	教材・教具研修会②()	
1	分教室研究会⑤(30) ・研究のまとめと研究 紀要作成に向けて		研修報告会() ・公開研究会等参加報 告	病弱教育研修会 県特研理事会②(18)
2		ケース検討会Ⅲ(4~8)		
3	分教室研究会⑤(4) ・研究のまとめと次年 度研究に向けて 全校研究会() ・本校・分教室相互の 研究のまとめ確認			

※ () の数字は実施予定日